

三井住友海上火災保険株式会社 中部総務部

SDGsの取組

<p>取組・活動内容</p>	<p>三井住友海上火災保険株式会社では、SDGsをキーワードに「世界トップ水準の保険・金融グループの実現」と「環境変化に迅速に対応できるレジリエントな態勢の構築」を目指しています。その中でも「気候変動対策」は、損害保険事業の観点から、当社としても最優先で取り組むべき課題です。そのため、当社は気候変動リスクと向き合っていくうえで「気候変動対策で社会に貢献する」というテーマに取り組んでいきます。当社は2021年4月、すべての事業領域・部門で気候変動対策を推進するため、経営企画部に気候変動対策チームを新設しました。国を挙げたカーボンニュートラルの実現に向け、まずは当社自身の業務のあり方やエネルギーの使用方法を見直すことでCO<sub>2</sub>排出量を削減します。また、CO<sub>2</sub>排出量削減に資する取組みや技術への補償提供、ESG投資の推進により、社会のカーボンニュートラルを支援します。さらに、自然災害に対する予防や、災害からの迅速な回復を支援する商品・サービスを提供することで、企業の自然災害を軽減するという役割も担ってまいります。また、損害保険会社である当社が取り組むべき社会課題は気候変動に加え、大規模地震、感染症、地方創生、少子高齢化など多岐にわたります。「社会課題をDXの力で解決し、SDGsを道しるべとした共通価値の創造CSV(Creating Shared Value)を実現する」ことを標榜しています。当社はこれからも社会的責任を果たし、「未来にわたって、世界のリスク・課題の解決でリーダーシップを発揮するイノベーション企業」を目指していきます。</p>		
<p>経済</p>	<p>①②⑨ ③⑧</p>	<p>目指すゴール</p> <p>取組・活動内容とゴールとの関係</p> <p>①グリーン電力証書安定供給支援保険の発売について →グリーン電力発電者（以下「発電者」）の施設（以下「対象施設」）が災害等のトラブルで稼働停止した際、発行事業者が、一時的に他の発電者等からグリーン電力の環境価値を調達することにより生じる追加費用を補償します。今後も新たな商品・サービスの提供を通じて、グリーン電力の普及拡大や脱炭素社会の実現に貢献していきます。</p> <p>②「RisTech」を新たなデータサービス事業として開始 →当社は、保険契約の引受により保有する契約や事故のデータに加え、取引先企業から提供されたデータを含むさまざまな統計データを掛け合わせ、企業の抱える課題を解決する「RisTech」を通じて、各業界の課題やデータ分析手法、先進技術等、社会課題の解決につながるノウハウや知見を蓄積してきました。従来の企業課題の解決に留まらず、業界全体や社会の課題解決にも貢献できるよう、さまざまなデータを活用した付加価値の高いサービスを、新たなデータサービス事業として展開しています。</p> <p>③障がい者の雇用推進と職場定着 →採用数を伸ばすこと、退職者数を抑え職場定着を目指すことの両面からの取り組みにより、雇用率の維持・拡大に繋がっています。</p>	<p>目標</p> <p>③全社員のうち障がい者の雇用率 2.46% (2021年4月1日時点) →2.50% (2021年度末目標)</p>
<p>社会</p>	<p>①②③11 ④⑤④・11 ⑥③・11 ⑦③・4</p>	<p>①ドライブレコーダー×AIによる道路点検サービス →ドライブレコーダーから収集した路面データをAI分析により損傷箇所を自動的に検出し、自治体等の点検・管理業務を支援するサービスをリリースしました。舗装道路の路面損傷による事故の削減・地域の安全向上に貢献していきます。</p> <p>②水災時の被災者生活再建支援サポート →自治体での罹災証明書発行に必要な情報について、当社損害調査情報（浸水の深さ等）を自治体へ直接提供することで罹災証明書発行を迅速化するサービスを開始いたしました。災害被災者の生活再建への支援取組に貢献していきます。</p> <p>③事故のない快適なモビリティ社会を実現する →シガーソケットに装着し、運転中に携帯電話を物理的にロックするFOUR SAFETY〜『ながら運転』防止支援サービス〜をリリースしました。愛知県内のお客様にもご契約頂いております。</p> <p>④千種中学校での防災授業の実施 →自然災害への備えについて考えるワークや発災後の対応についてのクイズを行うことで、自然災害の知識を子どもたちに伝え、災害に備える力がつくようにしました。また、授業で学んだことを家族に伝える為のまとめシートを作成することで、防災について家族が話し合う機会を作りました。</p> <p>⑤山田東中学校および大学生の職場訪問学習 →企業での働き方を知る為の名古屋ビル内職場見学を行いました。損害保険の社会的意義を学ぶ業界理解レクチャーを行ったり、基本的な社会人マナーを学ぶ名刺交換練習も実施しました。</p> <p>⑥交通安全取組 →「事故のない快適なモビリティ社会実現」を目的として、年間を通して0（ゼロ）が付く日の朝に名古屋ビル周辺横断歩道で交通安全の旗振りおよび交通監視活動を行っております。</p> <p>⑦ベルマーク・使用済み切手の収集 →ベルマーク・使用済み切手の収集を行い、NPO団体・ベルマーク教育助成財団に寄贈することで、教育環境改善への援助やボランティア団体の活動資金となっております。</p>	<p>全国の部支店において、年に1つは地球環境・社会貢献活動を実施することを目標としております。</p>
<p>環境</p>	<p>①13 ②③13・15 ④14,15 ⑤7</p>	<p>①法人契約者への修理時リサイクル部品使用の提案について →「気候変動への対応」、「カーボンニュートラルの実現」に向けた取組みの一環として、法人契約者の社有車修理時に、リサイクル部品の活用を推進しています。CO<sub>2</sub>排出量削減効果などのメリットがあります。</p> <p>②ペーパーレス化による環境負荷低減取組 →お客様が保険証券・ご契約のしおり（約款）をWEBサイトで閲覧できるeco保険証券、Web約款を推進しています。また、保険契約や変更手続きを代理店のPC・タブレット画面上で完結できる電子契約手続きを推進しています。</p> <p>③次世代自動車の導入 →社有車に水素自動車・ミライや電気自動車・リーフを積極導入することで、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでおります。</p> <p>④清掃活動 →藤前干潟や名古屋ビル周辺の清掃活動に取り組むことで周辺地域美化へ貢献するとともに、地域の環境保全を推進しております。</p> <p>⑤独自ドレスコード →ビジネスカジュアルを一步進めた「独自ドレスコード」を全国に先駆け実施し、コードに沿った服装で業務を行うことでエアコン温度を適正設定し、地球温暖化防止に貢献しております。</p>	<p>CO<sub>2</sub>排出量 2030年度：2019年度比▲50%→2050年度までに実質ゼロ</p>